

2.2 「食と健康」に係る先進事例調査結果 海外事例

(4) 調査事例の分析

21) Taste of Healthy Eating / 健康的に食べることを学ぶ (欧州/フランス)

取組名	Taste of Healthy Eating / 健康的に食べることを学ぶ (欧州・フランス)										
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> 2019年11月よりフランスで週に1回の野菜給食が義務化され、それに対応すべく栄養士監修の美味しく健康に資する10の新メニューを毎月50人の子どもたちがテストし、給食・社食として採用する 										
取組の内容	取組のタイプ	商品やサービスの提供 健康経営 ★ 社会貢献									
	特徴	提供する食、主な分析対象						先進性			
		栄養素 (例: ビタミンB)	食材 (例: 人参)	食品・料理 (例: 加工食品)	メニュー (例: 健康献立)	食文化 (例: 地中海食)	生体等 (例: 血中糖度)	新たな科学的知見	新たな技術	新たなサービス	新たな価値観
	◎								◎	○	
主要ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> 欧州、特にフランス、スペイン、イタリア国内の主な学校・企業 食の重要性について認識する必要のある人々すべて 										
先進性	<ul style="list-style-type: none"> プロではなく、子どもたちが新レシピの味見をすることで良い食習慣と食事が健康にどのように影響するかを体得させると共に子どもたちが社会貢献しているという自覚を持つことができ、大人たちも子どもたちから健康的な社食を通じ好影響を得ることができる 										

2.2 「食と健康」に係る先進事例調査結果 海外事例

(4) 調査事例の分析

21) Taste of Healthy Eating / 健康的に食べることを学ぶ (欧州/フランス)

- エリオールグループは欧州最大のケータリング関連企業であり、学校給食と社員食堂の多くを請け負っている。(約14,000校) 法改正による給食メニューにも即対応し、食と健康、そしてフードダイバーシティやSDGs への取り組みにも積極的である。

<食育>

エリオールグループは、長年の経験と実績から年齢に応じた最適なケータリングサービスを展開。給食は、保育所から大学に至るまで、子どもたちの成長に応じた栄養の高い健康的な食事だけではなく、食事の質を最大限に高めるため、食事を心地よく楽しみ健康に役立てるための音楽、もてなし、季節ごとの楽しいイベントなどの工夫がなされている。

また、フードダイバーシティを幼少時から学び、SDGsへの取組の一つであり、食と健康についての気づきと学びを得るため「ベジタリアンの日」朝食の重要な重要性を教える「朝食を食べよう」など食と健康のエンターテインメントプログラムを開発し、子どもたちに良い食習慣を植え付けることを目的とした食育にも積極的。



2.2 「食と健康」に係る先進事例調査結果 海外事例

(4) 調査事例の分析

22) SOPEXA フランス食品振興会/ 子ども向け食育マンガ本の無料配布

取組名	SOPEXA フランス食品振興会/子供向け食育マンガ本の無料配布										
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> SOPEXAは、「International Communication Agency 100% dedicated to Food, Drink, Lifestyle」をコーポレートスローガンとする食に特化した唯一のグローバルPRであり、大手優良企業を顧客に持ち、潤沢な資金で子どもの健康に特化した食育を展開している。 										
取組の内容	取組のタイプ	商品やサービスの提供 健康経営 ★ 社会貢献									
	特徴	提供する食、主な分析対象						先進性			
		栄養素 (例: ビタミンB)	食材 (例: 人参)	食品・料理 (例: 加工食品)	メニュー (例: 健康献立)	食文化 (例: 地中海食)	生体等 (例: 血中糖度)	新たな科学的知見	新たな技術	新たなサービス	新たな価値観
	主要ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> フランスの子ども（特に肥満児）とその家族 									
z 先進性	<ul style="list-style-type: none"> 子ども向けのマンガでありながら、フランス国立農業研究所 味覚・食化学センターが監修し、公式栄養ガイドラインに沿って、また子どもたちが自己投影しやすいキャラクターを登場させ、無理なく楽しく確実に食育を展開できる 										

2.2 「食と健康」に係る先進事例調査結果 海外事例

(4) 調査事例の分析

22) SOPEXA フランス食品振興会/ 子ども向け食育マンガ本の無料配布

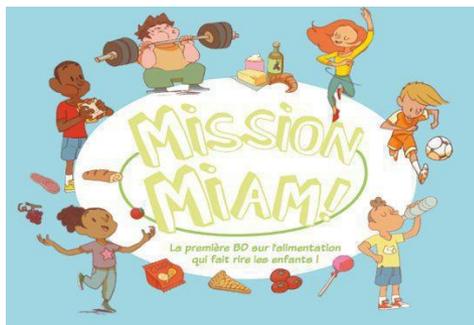
- フランスには約200万人の子どもが肥満という統計があるが食育のための教育ツールがなかったため、スポンサー企業とタイアップし、8歳から12歳の子ども向けの食育用まんが本「ミッション・ミヤム」(フランス国立農業研究所 味覚・食化学センター後援)をプログラム参加校と小児科で50万分以上無料配布

<取組>

ソペキサは、50年以上に渡る消費者と食生活の考察を通じ、国民の健康増進には食生活こそが重要であり、消費者および専門家向けに、生活習慣病予防への意識改革を図る活動が急務であること、また約60年間 非常に広範囲のテーマと問題に取り組んでおり、子供向けの栄養に関する教育ワークショップ(8~12歳)を通じバランスの取れた食生活についての啓蒙活動をメディア、学校の教育プログラムの両方で行っている。

果実野菜研究情報局(Aprifel)と共に、欧州連合共同出資のもと、野菜と果物を豊富に摂取し、バランスの取れた食生活の普及を目的としたキャンペーンを展開し、2016年には、「味覚の伝達と改革のための基金「Fondation pour l'Innovation et la Transmission du Goût」を設立 公式の栄養ガイドラインに基づき、子どもたちに味(味覚)、バランスの取れた食事、健康的な食事とは何かを理解しやすいように9歳から12歳までの全ての子供たちに「ミッション・ミヤム」(食育まんが本)を無料で提供。一般市民と専門家向けの肥満予防と意識改革に関する活動をサポートし、国民の健康に資することが目標。

思春期前の児童にバランスのとれた食生活の大切さを教え、強制感、罪悪感を与えることなしに、一日に必要な食事量を挙げ、総合的で新しい食生活のとらえ方を提案。シナリオ、会話、登場人物は、対象年齢層の子供たちが参加した教育ワークショップでの観察や発言をベースに考案されたものであり、8歳から12歳の子供の日常生活に密着し、子供たち特有の世界観を大切に言葉遣いにユーモアをもたせ大切なメッセージを伝達。このメッセージを理解、記憶し、実際に自分の生活で実践すればするほど、子供たちはコミックの登場人物に益々自分を重ねていくことができる。



スポンサー企業の協力により、「La Semaine du Goût®」(「Taste Week」)も「食と健康」に特化した食育の一環として実施している。



2.2 「食と健康」に係る先進事例調査結果 海外事例

(4) 調査事例の分析

23) Digital Food Lab / フランスにおけるフードテック調査結果

取組名	Digital Food Lab / フランスにおけるフードテック調査結果										
取組の概要	・フードテックが人々の食と健康に役立つことを短期・中期・長期で端的にまとめ公開										
取組の内容	取組のタイプ	商品やサービスの提供				健康経営		★ 社会貢献			
	特徴	提供する食、主な分析対象						先進性			
		栄養素 (例: ビタミンB)	食材 (例: 人参)	食品・料理 (例: 加工食品)	メニュー (例: 健康献立)	食文化 (例: 地中海食)	生体等 (例: 血中糖度)	新たな科学的知見	新たな技術	新たなサービス	新たな価値観
				◎	○				◎		
主要ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> 主に飲食業界の方々 食と健康に強い関心を持つ個人 										
先進性	<ul style="list-style-type: none"> ビッグデータを活用し、ゲノム情報とアルゴリズムにより各消費者の個別のニーズに対応することが可能。 新しい食と健康の具体的事例としては、新しい食と提供方法の提案がある 										

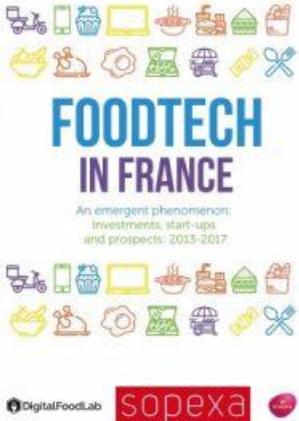
2.2 「食と健康」に係る先進事例調査結果 海外事例

(4) 調査事例の分析

23) Digital Food Lab / フランスにおけるフードテック調査結果

- デジタルフードラボは、ソペクサと共同で、フードテックのトレンドを調査し、理解することにより、今後のフードテックの発展に役立てることを目的とし、フランスにおけるフードテックに関する初の調査結果を発表した。

<概要>フードテック調査の基礎にもなったデジタルフードラボのデータベースはフランスで最も包括的であり、かつ構造的にも優れているといわれており、50年以上食品、飲料、ライフスタイルに関するPRを世界で展開してきたソペクサが変化の速い飲食業界の最新ニュースやトレンドを熟知する立場から、このプロジェクトへの参画を表明した。デジタルフードラボの調査は多岐に渡るため、「食と健康」関連のみ抜粋する。



短期	中期	長期
Uber Eats等のデリバリーなど 消費者ニーズに応じ パーソナルカスタマイズされた食	ブロックチェーン サプライチェーンの革新と可能性	よりローカルな食 Farm to Table Short Circuit
革新的な食と ローカルフード(地産地消)	パーソナライズされた 栄養と摂取方法	トレーサビリティと サプライチェーンの透明性 食の安心安全
飲食業界のための ビッグデータ解析	ミートテック(人工肉) など 未来食	さらにパーソナライズ化が 進んだ食と健康

フードテック分野



未来の食品 革新的な新しい食品の開発(昆虫食・完全植物性肉など)
食事代替品 伝統的な食べ物に置き換えられる高栄養の飲み物、バー、パウダーなど

ビッグデータと
コーチング分野



栄養学 ゲノムまたは微生物叢に基づいたテストから、各消費者の個別の栄養ニーズを確立することを提案。「何を食べる(または飲む)べきか」という質問に対する答えを人工知能に基づくアルゴリズムを使用して提供。
 * 消費者の期待に応じた食事、買い物・ワインリスト、オンラインレシピ
 トレーサビリティなど



DigitalFoodLab

2.2 「食と健康」に係る先進事例調査結果 海外事例

(4) 調査事例の分析

24) SODEXO ソデクソ/ 遠隔医療プログラム (糖尿病予防モバイルアプリ)

取組名	SODEXO ソデクソ/ 遠隔医療と食										
取組の概要	ソデクソ社は、「生活の質を向上させる」をモットーとし、学校・企業・公的施設へのフードサービスを中心とした幅広いサービスを提供する多角経営企業である。個人や組織のパフォーマンス向上に必要な不可欠であるQOL向上に重点を置いており、糖尿病予防プログラムにモバイルアプリを導入。										
取組の内容	取組のタイプ	★ 商品やサービスの提供				健康経営	社会貢献				
	特徴	提供する食、主な分析対象						先進性			
		栄養素 (例：ビタミンB)	食材 (例：人参)	食品・料理 (例：加工食品)	メニュー (例：健康献立)	食文化 (例：地中海食)	生体等 (例：血中糖度)	新たな科学的知見	新たな技術	新たなサービス	新たな価値観
	◎								◎		
主要ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> 糖尿病また予備軍の方々とその家族 										
先進性	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔医療プログラムは、患者と病院の双方が糖尿病の経済的および社会的コスト削減に寄与。 マンツーマンではなくグループ討論もできるため参加者のモチベーション維持につながる。 										

2.2 「食と健康」に係る先進事例調査結果 海外事例

(4) 調査事例の分析

24) SODEXO ソデクソ/ 遠隔医療プログラム (糖尿病予防モバイルアプリ)

- アメリカ糖尿病協会が、2018年には世界中で5億人以上がすでに2型糖尿病にかかっていると推定しており、深刻な病気や合併症を引き起こす可能性があるという報告を受け、ソデクソは、糖尿病予備軍の心疾患と脳卒中のリスクを軽減させるため、国立糖尿病予防プログラム (DPP) と連携し、対象となる方々の減量とリバウンド防止のための教育を展開。

<糖尿病予防プログラム>

遠隔医療は主に病気の治療と診断に使われてきたが、ソデクソでは糖尿病予防プログラムに予備軍の方々々がデジタル糖尿病予防プログラムに参加し、1年以内に体重の5%を減量するモバイルヘルスアプリを通じて食と健康の情報を幅広く提供。8つのDPPクラスでは、参加者が健康的な食と生活の習慣を身につけるライフスタイルに適合するように設計され、定期的開催されるライブストリーミングのインタラクティブクラスを通じて、健康的な食事と食事の準備、ストレス/行動管理、および日常活動について学習できるだけでなく、授業中、参加者はコーチや他のクラスメンバーと対話することも可能。アドバイスをするのはDPPからライフスタイルコーチとして認定されたソデクソの登録栄養士6人。

自宅では、参加者はデジタル体重計で体重を量り、食事やスナックの写真をフードジャーナルとしてアップロードし、Fitbitをモバイルアプリに同期することで毎日の身体活動をモニタリングし、モバイルヘルスアプリを使用して、コーチからの指導を受けることが可能。

<その他>

ソデクソは、入院患者の生活の質を向上させる病院食を提供するだけでなく、空港ラウンジでの野菜・果物中心のヘルシーな食事サービス部門があり、旅行中の人々の健康と幸福の実現取り組んでいる。特に長距離便での空の旅は身体に負担をかけるだけでなく、脱水、炎症、むくみにつながるため、それらの症状を軽減するような食と健康につながるサービスを提供。



2.2 「食と健康」に係る先進事例調査結果 海外事例

(4) 調査事例の分析

25) ヒーリングスクール / 食生活・体質改善短期合宿プログラム (韓国)

取組名	ヒーリングスクール / 食生活・体質改善短期合宿プログラム (韓国)										
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分の病気は自分で治す」(未病を含む) がコンセプト。短期合宿型でスタート時に個人目標を設定し、心身に生ずる日々の変化に気づくよう自己観察と記録と振り返りを繰り返し、習慣化させる。 										
取組の内容	取組のタイプ	★ 商品やサービスの提供 健康経営 社会貢献									
	特徴	提供する食、主な分析対象						先進性			
		栄養素 (例: ビタミンB)	食材 (例: 人参)	食品・料理 (例: 加工食品)	メニュー (例: 健康献立)	食文化 (例: 地中海食)	生体等 (例: 血中糖度)	新たな科学的知見	新たな技術	新たなサービス	新たな価値観
				○	◎					◎	
主要ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成人病の方 また予備軍の方 ・ 短期間で目に見える効果を実感したい方 										
先進性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋医学的 投薬などの対処療法ではなく、正しい知識を得て、一生涯続ける食習慣・生活習慣によって病気と未病を根本から改善する文字通り「食べて健康」な東洋医学的、根治治療を実現する。 										

2.2 「食と健康」に係る先進事例調査結果 海外事例

(4) 調査事例の分析

25) ヒーリングスクール / 食生活・体質改善短期合宿プログラム (韓国)

- 肥満治療はがん治療よりも成功率が低いと言われているが、6つの健康指標と細かなチェックリストにより生活習慣病改善後の状態をリバウンドがなく維持継続できる。

<ヒーリングスクール概要>

自然環境に恵まれた学校では、まず健康についての心構えを学ぶ。固定観念に捉われず現実を直視し、正しい知識をインプットし、明確な目標を立て、観察と記録を続けることを自分にコミットする。具体的には糖尿病や高血圧などの成人病になぜかかるのか、どうすれば予防できるのかを学び、体現していく。

食事は野菜と果物、そして玄米。肉・魚などの動物性たんぱくと脂肪、アルコール・タバコ・コーヒーなどの嗜好品は摂取しないが、自然の中で仲間と語り合ったり、レクリエーションを通じ、自己実現と目標に向かって努力するためストレスも感じないプログラムであることが特徴。

適度な運動も推奨されるが、それよりも早寝早起きのよい生活習慣と質の高い睡眠（睡眠不足は万病の元）を効果的にとる方法についても学ぶ。

(写真はイメージ)



自然環境の中で
短期合宿



玄米と野菜中心の
食物繊維豊富な
バランスの取れた食事